



いま、科学の進歩と社会のIT化は急速にすすんでいます。大多数の国民がスマートフォンという個別のコンピュータ端末をどこへでも持ち歩き、バスの運賃を調べたり、今夜家族で行くレストランの予約をしたり、大相撲の取り組みの結果をこっそり仕事中に確認したりすることはいつでも誰にでも簡単にできます。人工知能(AI)の発展も著しく、将棋の世界でAIが名人を打ち負かしたと思ったのもつかのま、ついに作文の宿題までAIがやってくれるようになりました。今年は、デジタル化の象徴ともいえる「2000年問題」から24年たちますが、21世紀にはいったときにつながった24年後にこのような社会になっていることを予想した人は少ないはずです。

この市民公開講座では、さらに24年後の世界を想像したいと思います。科学技術の進歩はどれだけ医療をかえるでしょうか？私たち人類はどれだけの疾患を克服できるでしょうか？そして病気にならざるにすむ方法はあるのでしょうか？

各分野の泰斗をお集まりいただき、2048年の医療について思いを語っていきたいと思います。



座長：渥美 達也
(北海道大学病院 病院長 / 第121回日本内科学会講演会 会長)

【略歴】

1988年3月 北海道大学医学部 卒業
1992年4月 苫小牧市立病院 内科 助勤
1994年7月 ロンドン聖トマス病院レイン研究所 勤務
1998年6月 北海道大学病院第二内科 助手
1999年6月 北海道大学医学院医学研究科免疫・代謝内科学講座 講師
2010年4月 北海道大学医学院医学研究科免疫・代謝内科学講座 准教授
2012年1月 同 教授
2022年4月 北海道大学副学長、北海道大学病院長

プログラム

講演1 13:00~13:30

疾患リスクの理解と予防医学の実践
～パーソナルヘルスの増進が拓く健康長寿社会～

座長：渥美 達也 (北海道大学病院 病院長 / 第121回日本内科学会講演会 会長)

演者：益崎 裕章 (琉球大学内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座 教授)

講演2 13:30~14:00

人工知能(AI)と共に歩む未来の医療

座長：渥美 達也 (北海道大学病院 病院長 / 第121回日本内科学会講演会 会長)

演者：工藤 與亮 (北海道大学画像診断学教室 教授)

パネルディスカッション 14:00~14:40

科学の進歩はこれからの医療をどうかえるか？

座長：松本 裕子 (医療キャスター)

渥美 達也

パネリスト：益崎 裕章

工藤 與亮

中村 昭伸 (北海道大学病院ダイアベティスマネジメントセンター長)

オンデマンド配信

《参加費無料》

期 間：2024年4月12日(金)～14日(日)14:50まで

視聴方法：本会ホームページより配信予定



一般社団法人日本内科学会

日本内科学会とは、内科学に関する学理およびその応用についての研究発表、知識の交換、会員の生涯教育の奨励ならびに会員相互および内外の関連学会との連携協力をを行うことにより、内科学の進歩普及を図り、もって日本の学術の発展に寄与することを目的とする日本最大の学術団体です。



第121回日本内科学会総会・講演会 [市民公開講座]

科学の進歩と未来の医療 2048年の医療はこうなる？

日時

2024年3月20日(水・祝)
13:00~14:40

会場

かどるアスピックホール

札幌市中央区北2条西7丁目 道民活動センタービル

会長

渥美 達也

北海道大学病院 病院長

主催：一般社団法人日本内科学会

パネルディスカッション・パネリスト

科学の進歩はこれからの医療をどうかえるか？



なかむら あきのぶ
中村 昭伸 (北海道大学病院ダイアベティスマネジメントセンター長)

2048年の医療 本当にどうなっているのでしょうか？ 私自身も想像つかないことが多いです。現在2024年ですので、2048年は24年後です。逆に24年前は、ちょうど私が大学を卒業して研修医となった時期と重なります。現在(2024年)のような医療が想像できかたといふと、できた部分とできない部分がありました。ただし、24年にも想像でき、24年後にも間違なく起こっていることは「人口構造の変化、つまり異なる高齢化社会です。これからの医療を考える上で大事なのは、御高齢の方が生活の質を低下させることなく生き生きと過ごせる世の中であることです。それを実現できるための科学の進歩と未来の医療が望まれます。

【略歴】
2001年 横浜市立大学医学部卒業
2009年 北海道大学大学院医学系研究科卒業 医学博士
2009年 横浜市立大学附属病院 内分泌・糖尿病内科 助教
2013年 北海道大学病院 内分泌 助教
2020年 北海道大学大学院医学研究科 免疫・代謝内科学教室 講師
2022年 北海道大学病院 糖尿病・内分泌内科 臨床准教授
2023年 北海道大学病院 ダイアベティスマネジメントセンター長

総合司会



まつもと ゆうこ
松本 裕子 (医療キャスター)
15年間の医療現場取材を感じるのは、医療は日進月歩の速さで進歩しているということ。昔は救えなかった命が救える様になり、治療が困難とされた病気の患者さんでも自分らしい日常生活を取り戻すことができる時代です。治療薬の開発が進んだことはもちろん、例えばAIを使った画像解析により、これまで見落とされがちだった初期のがんを見つかるようになったり、私たち一人ひとりの遺伝子情報を分析し、個々に合わせた治療法を選ぶ「個別化医療」も実現。さらに、遠隔地からでも専門医の診断を受けることが可能な遠隔診察は、地方にお住まいの方々にとって大きな希望です。人生100年時代へ進歩する医療を受ける側の私たちも医療の最前線を正しく知り、学ぶことが大切です。皆様のご参加を心からお待ちしています。

【略歴】
国際化されました。
世界を飛び回る外資系エアラインのCAなどを経験した後、福井テレビ、北海道文化放送のニュースキャスターを15年でこなしてきました。2010年、キャスター時代に母の人ががんがきっかけで医療現場の取材を始め、自ら制作したドキュメント特集は100本以上。様々な疾患の啓発活動を「リワーカー」とし、医療と患者を繋ぐ架け橋として「正しい情報」を届けるために、「医療キャスター」という新たなジャンルを確立。2020年からは現在は、UHBで毎2・4日曜朝6時15分放送「松本裕子の病を知る」に出演中。